

## 「あれか、これか」ではなく「あれも、これも」

「メガソーラー大牟田発電所」は2,200戸分の昼間の電気をまかなうほか、天候や日射量の変動が電力網全体の安定供給に与える影響の研究を行っているそうです。再生可能エネルギーの利用技術が進歩していることを改めて実感しました。

しかし失礼を承知で日本全体のことを申し上げれば、まだまだこれから、という思いもあります。わが国では閣議決定の「低炭素社会づくり行動計画」により、太陽光による発電量を2005年に比較して2020年までに10倍に、2030年には40倍にする目標があります。この目標を達成するためには、例えば新築住宅の7～8割に太陽光発電を設置しなければならないと言われており、設置を促進する思い切った支援政策がなければ実現が難しい数字です。メガソーラーは大きな期待を担っているのです。全国の電力会社は2020年度までに全国約30地点で計14万kWの建設を計画しているそうです。太陽光は急に陽が陰ったり、一日中雨で発電できなかつたりという大きな弱点があり、電力網に無理を



(財)九州環境管理協会 理事・事業本部長 [理学博士] 松岡 信明氏

かける欠点がありますが、関係者の皆さんには、ぜひ頑張って進化させていただきたいと思えます。

日頃から強く思っているのですが、エネルギー問題には柔軟な考え方が必要です。或る先生もおっしゃっていましたが、発電方法にしても「あれか、これか」という単一選択ではなく「あれも、これも」という複眼的な選択が求められると思えます。

それにしても、ほんの十数年前には「未来の図」でしかなかった「メガソーラー発電所」が実働していることに感動を覚えました。ちょうど今、中東の政情不安で原油価格の先行きが危惧されています。世界はこれからもエネルギーに関して様々な困難に直面すると思えますが、地道な研究・努力の積み重ねによって人類は未来を切り開いていくことができると信じています。この「メガソーラー大牟田発電所」には整然と並んだ太陽光パネルを一望できる眺望スペースも備えられていますから、多くの方々に見ていただきたいと思えます。

大牟田市は、石炭産業を中心とした鉱工業都市として一大発展し、日本の近代化を支えてきました。その歴史は日本の殖産興業史として貴重であり、「三池炭鉱宮原坑跡」を含む「九州・山口の近代化産業遺産群」は、世界文化遺産への登録が期待されています。

現在は、石炭産業から派生した高い技術力と交通アクセスの良さを活かし、多機能都市として生まれ変わろうとしています。大牟田市といえば「炭鉱の街」というイメージで



固定されがちですが、2007年にはフォーブズ誌の「世界で最もcleanな都市トップ25」にも選出されています。日本のエネルギーを支え、将来の再発展が期待される大牟田市。「メガソーラー大牟田発電所」は、そんな大牟田市を照らすシンボルのひとつです。



(Photo:大牟田観光協会提供)

- 1 臥龍梅(普光寺) / 大牟田市大字今山本村2538
- 2 三池カルタ・歴史資料館 / 大牟田市宝坂町二丁目2-3
- 3 石炭産業科学館 / 大牟田市岬町6番地23
- 4 宮浦石炭記念公園 / 大牟田市西宮浦町132-8
- 5 延命公園 / 大牟田市昭和町223
- 6 三池炭鉱宮原坑跡 / 大牟田市宮原町1丁目86-3
- 7 メガソーラー大牟田発電所 / 大牟田市新港町1番地37

表紙写真:「臥龍梅」(がりゅうばい) 普光寺境内にある福岡県の指定天然記念物の紅梅。地を這う龍を思わせる姿から「臥龍梅」と呼ばれています。樹齢450年以上といわれる古木は、全長24メートルにも及び、その美しさ・大きさは多くの人を魅了しています。



大牟田市今山「普光寺」臥龍梅

TOMIC  
九エネ懇のエネルギー&エコロジー情報誌

# とおみつく

発行日 ■平成23年3月10日  
(社)九州経済連合会  
発行所 ■九州エネルギー問題懇話会  
〒810-0001  
福岡市中央区天神一丁目10番24号天神セントラルプレイス3階  
TEL:092-714-2318 FAX:092-714-2678

NO. **43** 2011

臥龍梅 地を這う龍の梅は、春の訪れの使者。  
数百年前 ひと株の小さな樹は  
光を受けてしなやかに枝を伸ばし  
やがて土を得た枝は 根を生じ株を増やし  
その株からまた 枝が伸びてゆく…

この国のエネルギー問題を考えるとき  
臥龍の梅は大切なことを教えてくれる。

新しい根が 枝を株を大きく育てさせる  
強い生命力が 幾つもの個性をうねらせる。

自然エネルギーという新しい根を育むことで  
一体の大いなる龍となし  
未来という春を 私たちに連れてきてほしい。

